

# 「バリアフリーの実現のために必要なこと」

論点は！  
ここだ！

この課題で求められていること

- ①高齢者や障がい者を取り巻く障壁（バリア）にはどのようなものがあるかの知識を取り上げる。
- ②バリアフリーに向けての地域や行政の取り組みを押さえる。
- ③私たち自身の取り組みについて、自分の考え、意見を主張する。

## 評価のポイント

この設問では、まず、現在の日本における高齢者や障がい者の現状について簡単に示すことが求められます。「小論文まとめワーク」に掲載されている統計資料などから、少なくとも現代社会において、高齢者や障がい者の数が増加しているという状況を説明しておきたいところです。

次に、高齢者や障がい者が突き当たっている「障壁（バリア）」そのものの説明をすることが必要になります。「小論文まとめワーク」では道路、建物や駅、公共交通機関、自宅という状況に分けて取り上げていますが、ほかの事例を取り上げている場合は、内容が正しい知識に基づいているかを判断することが必要です。

そして、事例で取り上げたバリアをなくすにはどのような対策をとればよいのかを論じるうえで注意すべき点があります。それは、地域や行政が行う、いわゆる「環境整備」に関する物理的な側面と、「心のバリアフリー」と呼ばれる心理的な側面の両方の要素を含めるのが望ましいということです。前者はノーマライゼーションに基づくもので、中でも物理的な障壁を取り除くことを目的とする具体的な対策には、主に税金などが投入される必要があります。後者は、私たち一人ひとりが、「思いやりの心」を持って様々な人たちと接することの必要性を説くものです。



## 気を付けたい答案例とアドバイス

✕ 障壁（バリア）に関する「知識」の部分が長すぎる。

➡ ○ 「知識」は簡潔にまとめる。

「小論文まとめワーク」を参考にしたり、あるいは別のところで聞いたり調べたりして、課題に対する知識を得ると、ついそれを多く書いてしまいがちです。もちろん、高齢者や障がい者が突き当たる「バリア」がどのようなものかという説明を書くことは必要ですが、そればかりを多く書いて、肝心の「対策」の記述が少なくなってしまうのは問題です。

✕ 「バリアをそのままにしておくのはよくない。」

➡ ○ 状況を踏まえ、改善策を前向きに示す。

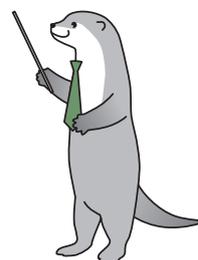
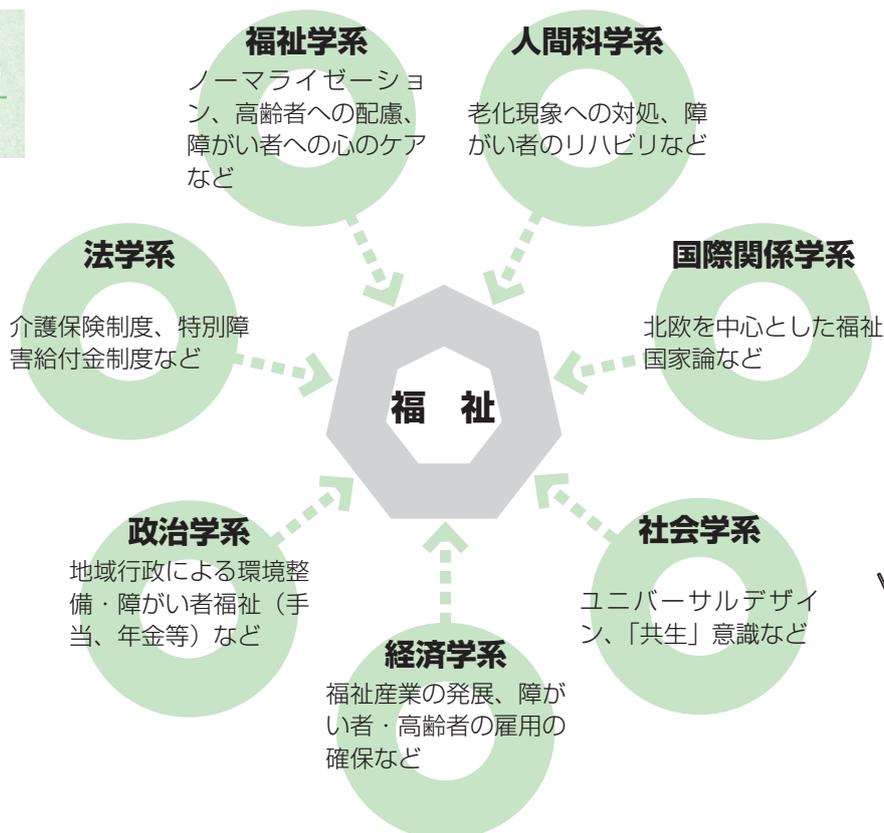
「よくない」のだとしたら、その「よくない」ことがどのようなものであり、それを克服するためには何が必要かを考えるのが小論文です。高齢者にとってのバリアと障がい者にとってのバリアに分けて考えることで、それぞれの問題点が見えてきます。もちろん、中には共通する問題点もあるでしょう。それを明らかにしたうえで、その問題点をどのように解決していくのかを論じていくことが大切です。

## ✕「バリアをなくすために地域や行政には頑張してほしい。」

### ➔ ○「私たちが持つべき意識」にも目を向け、複眼的に考える。

高齢者や障がい者が感じる障壁（バリア）の多くは物理的なものであり、それらを取り除くためには地域や行政による環境整備が必要です。その意味で、地域や行政にしかできないことというのは確かに存在します。しかし、たとえ環境が整っていたとしても、そこで生活する私たちに、高齢者や障がい者に対する配慮がなければ意味がありません。形だけ整っていても、心が伴わなければ本当のバリアフリーは成立しないのです。その意味で、私たち自身がどのようにしていくべきなのかという「心構え」にも触れるようにしてください。

### いろいろな分野からの アプローチ



### 学部別出題例

#### 【A大学（看護学部）】

聴覚障がいは情報障がいであるという趣旨の文章を読み、障がいを持つ人々のために、社会は災害に対してどのような備えをしたらよいのかを述べる。（600字）

#### 【B大学（社会福祉学部）】

財政難のために行政の福祉サービスが抑えられ、地域でのボランティア活動やNPO活動が活発になる流れに賛成か反対かを明確にして、複数の図を用いて今後の地域のあり方を1200字以内で述べる。

#### 【C大学（人間社会学部）】

高齢者が食料品を入手するのに不便を感じる地域の増加を危惧する文と図より、対策実施上の課題などを述べる。（800字）

#### 【D大学（社会福祉学部）】

課題文を読み、「優先席」についての意味や意義について、自分の考えを600字以上800字以内で述べる。